



新座三中だより

学校教育目標

自ら学ぶ 心豊かに たくましく

新座市立第三中学校

令和4年10月1日

新座市池田1-1-1

TEL 048-479-4052

FAX 048-482-0133



良い土壌は良い作物をつくる

校長 和久井 功雄

スポーツの秋・食欲の秋・読書の秋、実りの秋と言われるように美味しいお米や果物など…、この時期はあきない楽しみの多い季節です。皆さんは、どんな秋の楽しみを見つけられているでしょうか。生徒たちは、先日の体育祭に全力で取り組み、盛り上がりました。保護者の皆様には、参加制限をさせていただいたにも関わらず、大勢の方に参観・応援していただきありがとうございました。お陰様で生徒たちにとって励みとなり、力強い支えとなりました。感謝申し上げます。

生徒たちはこの後、合唱祭、部活動、勉強など、さらに秋を満喫してくれることでしょう。

若い頃、花卉農家に学びに行かせていただいたことがあります。今は埼玉スタジアムになっている畑の農家さんにお世話になりました。そのとき、「良い農家の条件は何だか分かるか？」と聞かれました。「上中下がある」といわれましたが、その違いを答えられませんでした。「下と言われるのは、雑草を育てる農家。」「中は、作物を育てる農家。」「上は、土をつくる農家、つまり土づくりが鍵だ。」といわれました。雑草が生えないと言うことは、単純に農薬をまいているのでは？と訊ねたら、「違う、雑草が生えない土を作っている。俺は雑草が生えない土を考案した(土の配合とスチームをかける)。」と教えてくれました。なるほど、良い作物を作るためには良い土・良い畑(土壌)をつくることなのか。教育も同じだなあと、妙に納得をしたのを覚えています。

先日の体育祭で三中生の躍動する姿を見てその事を思い出しました。学校という土壌が生徒の成長に影響している。さらには、家庭という土壌のお陰で、子供たちは毎日、学校生活を頑張ることができている。今の三中は素晴らしい土壌であると言えるのではないかと感じました。

3年生は、三中50年の歴史上、一番の体育祭にしようとして一生懸命でした。2年生は、3年生が良い思い出づくりができるように支え、そして1年生をリードする。1年生は、初め



てだけど、自分たちにできることを一生懸命にやり、先輩たちを手本についていく。これは学校として、生徒が成長するために最も効果的な流れができていると感じました。

生徒たちは自分の色が優勝するために全力で競技をしていました。各競技の結果発表の際、7位になっても大きな拍手と盛り上がりで自分たちの健闘をたたえ合う姿は、清々しさを感じました。全力で一生懸命に取り組んだということが伝わりました。勝っても負けても「一生懸命はかっいいい」ということを生徒の姿から感じました。

極めつけは予行練習です。最後の閉会式校歌練習の際、放送の不具合で校歌を歌えず消化不良のような終わり方をしました。そして、教員がその場で反省会を開き「校歌だけやり直そう。」と言っていたその時、校庭の反対側で、実行委員長を中心に生徒たちが、自主的に校歌の練習を始めました。その姿に教員たちは、感嘆の声を上げ生徒たちの取り組みを見守っていました。教師としてこんなに嬉しい瞬間はありませんでした。心が震える感動を味わわせてもらいました。

「Impossible is Nothing ～輝け虹の閃光団～」不可能なんてものはない、やればできる。ということを示してくれました。

三中という最高級の土壌が相乗効果を生み出し、生徒たちを育てています。その土壌は、学校、家庭、地域が一体となり作り上げているものだと実感しています。長い人生において、中学校の3年間は、わずかな時間ではありますが、生徒の人生を支える根が培われる学校であるよう取り組んでいきたいと思えます。